

中学校第3学年 社会科（公民的分野） 学習指導案

期 日 平成25年10月29日（火） 第5校時

場 所 山都町立矢部中学校 3年1組教室

指導者 教諭 梶原 正臣

1 単元名

「住民として地方の政治を考えよう」（帝国書院 pp60-69）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領(3)イ「民主政治と政治参加」を受けて設定されている。地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治発展に寄与しようとする住民としての自治意識を育てることをねらいとしている。今日、各地方公共団体では、少子高齢化、過疎化問題の解決等、対立構造が生じる中においても合意形成を図りながら、様々な取組が行われている。地方に応じた特色ある地域づくりの推進においては、行政主導から住民主導への移行がますます求められている。今後、日本を担う生徒たちにおいて、主権者及び住民の一人として、地域づくりへ参画していく態度を育てることは大切である。そこで、本単元では、観光客を増やし町の活性化を図ろうとする立場と史跡や文化的景観を守ろうとする立場の中に生まれた対立から、合意形成にいたった山都町の取組を教材として取り上げる。それにより、対立から合意にいたる過程を実感を伴って理解するとともに、まちづくりの推進プランを作成し、地域の方々へ発信することで、地域の一員として山都町の発展のために積極的にかかわっていかうとする態度を育てることができると考える。

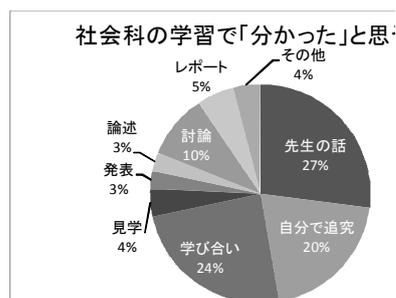
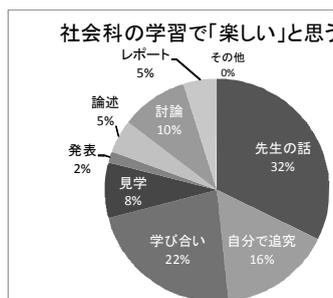
(2) 系統観

第6学年(1月)	第2学年(10月) 地理的分野	第3学年(10月) 公民的分野	第3学年(2月) 公民的分野
(単元名) わたしたちの願いを実現させる政治 (学習指導要領の指導内容)(2)ア 国民生活と地方公共団体	(単元名) 身近な地域の調査 (学習指導要領の指導内容)(2)エ 身近な地域の調査	(単元名) 住民として地方の政治を考えよう (学習指導要領の指導内容)(3)イ 民主政治と政治参加	(単元名) 持続可能な社会をめざして (学習指導要領の指導内容)(4)イ よりよい社会をめざして

(3) 生徒観

○アンケートによる意識調査から

右のグラフによると、7月時点では、思考力・判断力・表現力を高める言語活動として位置付けられている「学び合い」「論述」「討論」などの学習に価値を見いだしている生徒が少ないことが分かった。



○学力に関する実態から(平成25年度熊本県学力調査結果より)

観 点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
県平均定着率	64.8	46.9	53.8	58.0
本校生徒の定着率	52.8	40.1	43.2	48.8

(分析及び考察)

熊本県学力調査の結果から、定着率は4観点すべてにおいて県平均を下回っている。中でも「関心・意欲・態度」は県平均との差が最も大きい。また、「思考・判断・表現」と「資料活用の技能」が、県全体の課題と同様、本校生徒の大きな課題となっている。

これらの結果をふまえて、以下の五つの力を身に付けさせることに留意して学習活動に取り組ませたい。①社会的事象に興味・関心を持つ力、②資料を読み取る力、③読み取ったことまとめたり、それを基に自分の考えを表現する力、④まとめや考えを伝える力、⑤伝え合ったことを基に考えを再構成する力。

(4) 指導観

- 本単元では、「社会的対立について考える」という命題のもと、「討論」活動をパフォーマンス課題として設定している。自分たちの地域にある対立事象について個人で追究する過程で「自立」を促し、生徒同士の学び合いの学習により「協働」を図り、提案性のあるまとめで「創造」へつなげることで、思考力・判断力・表現力等をはぐくむようにする。
- 問題解決的な学習の展開や客観的な判断基準による学びの振り返りにより、生徒の主体的な学習が図られるようにする。
- 本単元では、単元のねらいに迫る身近な地域の教材として、「通潤橋の放水をめぐる対立事象」を取り上げる。単元導入時にも、全国各地に起こった「ごみ処分場建設をめぐる対立」を教材として取り上げ課題意識を持たせるようにしているが、より身近な地域の事象を取り上げることにより、追究意欲を高め、実感を伴った理解から政治参加への意義や郷土を誇りに思う心をはぐくむようにする。
- 熊本県立教育センターの共同研究のテーマは、「未来を拓く確かな学力をはぐくむ教育の展開」である。本研究のテーマを受け、社会科では「社会的対立について考える」というパフォーマンス課題を設定して、以下の研究視点を設定して取り組むこととした。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
【視点1】 本単元では「社会的対立について考える」という討論を主軸とした言語活動を設定し、自分自身・他者・教師・教材(社会的事象)との豊かなかわり合いにより対話が生まれる授業を通して、思考力・判断力・表現力等が育成されるようにする。	【視点2】 本単元では「社会的対立について考える」というパフォーマンス課題を設定する。また、その思考過程を「対立軸の整理」「合意形成を妨げる要因の整理」「合意形成の条件とプロセスの提案」「合意形成」の4段階に設定し、自らの学びを振り返らせて評価する。	【視点3】 本単元では身近な地域に見られる社会的事象を教材化することで関心意欲を高めるとともに、追究過程における情報の収集、処理、判断、表現、創造が生徒の主体的な活動となるようにする。また、振り返りにより学習過程をフィードバックさせ、情報活用能力を高める。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	地方公共団体の政治の仕組みについて理解させるとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治発展に寄与しようとする住民としての自治意識を育てる。
社会的事象への関心・意欲・態度	①現代日本の政治は、中央の政治と地方の政治(地方自治)に分類できることに着目し、身近な地域の特色ある政治について進んで調べたり、地域住民の一人としてその在り方を考えたりしようとしている。
社会的な思考力・判断力・表現力	①具体的な事例をもとに、地方公共団体が代表民主制を原則としながらも直接民主制の手法を導入している理由について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ②既習事項を活用しながら、将来の主権者として主体的に政治に参加することの意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用の技能	①「まちづくり」の課題、または現代政治全体の課題について、様々な情報手段を活用して収集している。 ②収集した資料の中から「まちづくり」の提言書に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。
社会的事象についての知識・理解	①地方公共団体の政治は、首長と議会の二つの機関を中心に行われていることを理解し、その知識を身に付けている。 ②具体的な事例を通して特色ある「まちづくり」の意義に気付くとともに、現代日本の政治の課題を解決するためには、国民の積極的な政治参加が求められていることを理解する。

4 指導・評価の計画（5時間＋4時間取扱い 本時8／9）

次時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 【三つの視点から】	評価の観点(評価方法) B基準	
1	1	○課題を設定する。 ○地方自治と民主政治について追究する。	・全国各地で見られたごみ処理場建設をめぐる対立から、地方の政治に対する追究意欲を高め、課題を整理させる。	関心・意欲・態度①(学習シート) 身近な生活のさまざまなことが地方自治と結びついていることに興味を持ち、追究しようとしている。
2	2	○地方公共団体の仕事としくみについて追究する。	・自分たちのまちが、どのような仕事をどのようなしくみで行っているのかを具体的に調べさせる。	知識・理解①(学習シート) 地方自治のしくみや地方議会と首長の役割が分かり、住民参加の在り方について理解している。
	3	○地方財政の現状と課題について追究する。	・地方公共団体の財政にはどのような課題があるのか、具体例を取り上げ理解させるとともに、財源を豊かにする方法を考えさせる。	思考・判断・表現①(学習シート) 地方財政の問題点を理解し、財源を豊かにするための方法について考えている。
	4	○地方自治の変化と私たちについて追究する。	・地方自治を取り巻く環境はどのように変化しているのかを理解させるとともに、自分の意見を持って行動することの意義をとらえさせる。	思考・判断・表現②(学習シート) 地方の政治に対し、自分の意見を持ち行動する糸口を見いだすことができている。
3	5	○身近な地域に起こりうる対立軸を整理する。	・通潤橋の「放水権」をめぐる事象を取り上げ、なぜその対立が起こったのかを整理させる。 【視点1】自分自身との対話により自立化を図る。	関心・意欲・態度②(学習シート) 身近な地域に見られる事象に関心を持ち、対立の構図やその要因について課題意識を持ち、追究しようとしている。
	6	○合意形成を妨げている要因について考える。	・合意形成を図る上で何が解決を妨げているのかを整理させその要因について考えさせる。 【視点1】自分自身との対話により自立化を図る。	思考・判断・表現③(学習シート) なぜ合意形成に至っていないのか、なぜ解決しないのか、何が妨げているのか、自分の考えを整理している。
	7	○合意形成に至るまでに必要なことを考える。	・対立はどうやったら合意にまで至ることができるのか、その条件やプロセスについて考えさせる。 【視点1】他者との対話により協働を図る。	思考・判断・表現④(学習シート) どうやったら合意形成に至るのか、解決するための糸口となる条件やプロセスについて考えている。
	8	○自分の立場を明確にして対話し、合意形成を図る。	・実感を伴う理解となるように意見の違う立場の人と対話し合意形成を体感させる。 【視点1】社会的事象と他者との対話により創造を図る。	関心・意欲・態度③(学習シート) 自分の意見を明確にしながら立場の違う人と対話し、合意形成を図ろうとしている。
4	9	○まちの活性化プランを考え、伝え合う。	・自分たちの故郷のまちをよりよくするために、何が必要であるか自分なりに考え、山都町活性化プランを提案させる。	思考・判断・表現⑤(学習シート) 自分たちのまちをよりよくするための活性化プランを効率・公正な視点で考えている。

※ 本単元では、「地方の政治」と「持続可能な社会をめざす」学習を複合的にとらえた単元構成としている。

5 本時の学習

(1) 目標

通潤橋の放水をめぐる「観光重視」と「通潤橋保護」の対立について、効率と公正に基づいた合意形成を経験することを通して、社会生活に起こる諸問題の解決に必要な考え方・話し合い方・表現の仕方の基本的な態度を身に付ける。

(2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 5分	1 前時までの学習の流れの確認。 2 通潤橋の放水をめぐる「観光重視」と「文化財保護」からの意見の発表。	○通潤橋の放水をめぐる「観光重視」と「通潤橋保護」の立場から考えた意見を確認しましょう。	【視点1】対立する二つの立場から、自分自身・他者等とのかかわり合いを通して考えた意見を発表させる。 【視点2】「対立軸の整理」「合意形成を妨げる要因の整理」について、学びを振り返らせる。	写真 議事録 資料 ワークシート 短冊
展開 40分	3 学習課題について話し合う。 (1) 「観光重視」と「通潤橋保護」との合意形成へ向けて話し合う。 (2) 合意内容を発表する。 (3) 発表をうけ、合意内容の決定にあたって、郷土の歴史・未来の視点から考える。 (4) 実際の合意内容を知り、それがどのような影響を与えたか、なぜその合意内容が存続しているのかを考える。	観光を重視し、通潤橋も保護するには、どのような合意ができるだろうか？ ○双方が納得することを目指し相手の立場に配慮して合意形成を図りましょう。 ○それぞれの班から、合意内容を発表しましょう。 ○各班の発表を受けて、どうすればよいか考えましょう。地元には、こんな言葉が残されています(※参照)。 ○効率よく決めるのではなく、時間をかけて思いを一つにする。そうすれば、長い眼で見たときにより効率的になるのではないのでしょうか。 ○(実際の合意内容を示し)この合意を実行に移した年、通潤橋周辺の観光客はどうなったでしょうか。そして、今もこの合意は生きています。それはなぜでしょう。	【視点1】お互いに相手の立場に配慮しつつ意見を主張し合うことを通して、「合意形成の条件とプロセスの提案」から「合意形成」へと思考を深めさせる。 【B基準】通潤橋の放水をめぐる「観光重視」と「通潤橋保護」の対立について合意形成を図っていく過程で、積極的に考え、話し合い、表現している。(社会的事象への関心・意欲・態度) (B基準に達していない児童への手立て) ○生徒がこれまで記入したワークシートを振り返らせ、考えをまとめる支援を行う。	ワークシート 発表シート 観光客の推移のグラフ
整理 5分	4 学習を振り返っての感想を述べる。	○私たちは、何を大切にしているのでしょうか。そして、それを取り巻く状況、今後の展開はどうなるのでしょうか。	【視点3】これまで収集、処理、判断、表現してきた情報を振り返り、統合することで、自分の考えを創造させる。	ワークシート 写真

※「へしたらいかん」：(自分と違う意見を)無視したらいけない、差別したらいけないという意味